

地理空間情報に関する北海道地区産学官懇談会  
令和元年度 第1回情報共有会合議事概要

1. 日時：令和元年5月28日（火）15:00～16:30
2. 場所：札幌第1合同庁舎10F 共用第1・2会議室
3. 出席者 30名 ※括弧なしは各1名  
北海道開発局（2名）、北海道運輸局、札幌管区気象台（2名）第1管区海上保安本部、陸上自衛隊北部方面総監部（2名）、北海道（3名）、札幌市、江別市、岩見沢市、日本測量協会北海道支部、北海道測量設計業協会、建設コンサルタンツ協会北海道支部、日本写真測量学会北海道支部、Digital北海道研究会（2名）、北海道産学官研究フォーラム（2名）、北海道G空間情報技術研究会、北海道大学、酪農学園大学（2名）、国土地理院（4名）
4. 議事
  - (1) 情報共有会合について（設置の経緯 ほか）
  - (2) イベントカレンダーの運用について
  - (3) 話題提供
    - ・デジタルトランスフォーメーションのうねりと防災情報部会の取組み  
（北海道産学官研究フォーラム）
    - ・総会・春季特別講演会  
（日本写真測量学会北海道支部）
    - ・地理院地図の改良等について  
（国土地理院北海道地方測量部）
  - (4) グループ討論
    - ・人のネットワークづくり
    - ・今年度の情報共有会合で取り組む議題について
  - (5) その他
    - ・新しい災害時マッピングボランティア制度 N<sup>2</sup>EM（ネム）のご紹介  
（酪農学園大学 EMT）
5. 配付資料
  - (1) 事務局
    - ・議事次第及び出席者名簿
    - ・地理空間情報に関する北海道地区産学官懇談会情報共有会合設立趣旨・設置要綱
    - ・平成30年度情報共有会合の実績
    - ・イベントカレンダーの運用について
    - ・Geo アクティビティコンテスト
    - ・地理院地図の改良等について
    - ・近代測量150年 -測量の歩みを知り未来へつなぐ-
  - (2) 関係団体

- ・デジタルトランスフォーメーションのうねりと防災情報部会の取組
- ・xR 最新動向セミナー ～xR (VR・AR・MR) 技術の利活用について～
- ・第2回 航空・交通セミナー ～都市交通と自転車～  
(北海道産学官研究フォーラム)
- ・GIS・CIM ハンズオン定期講習会のご案内
- ・「マスマーブメントのデジタル空間解析」出版祝賀会のご案内  
(Digital 北海道研究会)
- ・総会・春季特別講演会 (日本写真測量学会北海道支部)
- ・新しい災害時マッピングボランティア制度 N<sup>2</sup>EM (ネム) のご紹介  
(酪農学園大学 EMT)

## 6. 議事概要

- (1) 事務局から、情報共有会合の設立経緯と趣旨について説明を行った。
- (2) 事務局から、情報共有会合の参加機関・団体が予定しているイベントを集約したイベントカレンダーの運用について説明し、引き続きイベント情報の提供依頼を行った。
- (3) 話題提供として、北海道産学官研究フォーラムから「デジタルトランスフォーメーションのうねりと防災情報部会の取組み」について、概要説明を行った。日本写真測量学会北海道支部から6月7日に開催される「総会・春季特別講演会」について、概要説明を行った。国土地理院から「地理院地図の改良等について」の説明を行った。
- (4) 3つのグループに分かれ自己紹介を行い、その後にグループ討議を行った。グループ討議では、グループ毎に今後の情報共有会合で取り上げる課題等について、①日常的に情報共有の必要性のある事項、②どのようなことに困っているか、③情報共有会合で取り上げてほしいテーマなどの観点から討議を行い、各グループより討議概要を報告した。

### ○A班の報告概要

- ・地理空間情報が部局間で共有されておらず、自由に使える状態で公開されていない。公開する場もない。
- ・セキュリティの関係でオープンデータが使えない。
- ・仕事のやり方を変えずに電子化され、そのデータがGISデータとして活用できない。やり方を変え、きちんと使えるように転換していかないといけない。
- ・担い手が育っていない。

### ○B班の報告概要

- ・CIMは、構造物の維持管理、GISは町全体でそれぞれ整備しているが統一感がない。
- ・インフラ整備データがない。インフラ整備してもメンテナンスできるかわからない。
- ・情報基盤となるデータが必要、共有化が必要。
- ・予算の問題、手間暇がかかり、できればいいことはわかっている、実際

に「できる」・「する」ことは難しい。

- ・エキスパートを育てるシステムになっていない。人が変わっても連携するシステムにする必要がある。

○C 班の報告概要

- ・日頃からどのような業務をしているのか、災害対応で利用するのに緯度経度などの位置情報がないなど違いがある。今後も情報を共有するためにこの会合で話あえればよい。

(5) 酪農学園大学から、「新しい災害時マッピングボランティア制度」の紹介があった。

次回の第2回情報共有会合は、7月下旬～8月上旬を目処に開催する予定。